

事務事業マネジメントシート

作成日 令和 7 年 7 月 1 日作成

事務事業名		図書購入整備事業				担当課	生涯学習課					(3)指標の推移		4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度								
						担当G	図書館管理係					活動指標（実施状況）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)							
まちづくりプラン （基本目標）		振興計画体系	5	＜教育・文化＞心豊かで志あふれる人づくりと伝統・文化のまち				予算科目	会計	款	項	目	備考	ア	図書の購入冊数	冊	5,000	4,000	4,000	4,000	4,000						
（個別目標）			2	多様な志を育むまち				主な費目																			
（施策）			1	生涯学習の推進				対象	志布志市民及び市内に就学・就職								成果指標（成果・効果）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)		
（基本目標）		4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる				事業期間							平成9年度～ 年度（ 年間）					ア	一人あたりの貸出し冊数	冊	5	5	5	5	5	
（施策）		7	安心暮らし推進プロジェクト																			イ					
(1) 総事業費の推移		単位	4年度 (実績・決算)	5年度 (実績・決算)	6年度 (計画・予算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	9年度 (計画・予算)	(4)評価		所管課による評価																
年間トータルコスト	事業費	財源内訳	国県支出金	千円						有効性評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	・図書館の役割や運営上、図書資料の購入は必要不可欠である。 ・振興計画『個別目標』にある、“いつでも学べる場と機会があるまちをつくる”の中心的な役割となっている。 ・利用料等については、図書館法（第17条）に定めるとおり、原則いかなる費用も徴せないため、その点において公平性に差は生じない。															
		財源内訳	その他特定財源	千円		5,000	5,000	5,000	5,000																		
		財源内訳	一般財源	千円	7,835	1,739	667	1,062	1,062																		
		事業費計（A）	千円	7,835	6,739	5,667	6,062	6,062																			
		所要人員（年間）	人	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100																			
		人件費概算（B）	千円	560	560	560	560	560																			
		(A) + (B)	千円	8,395	7,299	6,227	6,622	6,622																			
(2)事業概要													効率性評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携													
事業目的	・生涯学習の拠点施設として市民サービスの充実を図るため、図書資料を購入し、図書館機能を推進する。																										
事業内容	・年間をととして図書資料を購入し、本館及び5分館並びに移動図書館の蔵書の充実を図る。購入する図書資料は主に職員全員で選書し検討する。並行して、利用者のリクエストも受け付けている。また業者からの見計らい依頼に対し、現物を見ながらの選書も行っている。年1回蔵書点検を行い、不明本の確認をし、図書の整備に努めている。同時に延滞本の連絡を行い登録者の確認もしている。																										
開始経緯	・図書購入は平成9年図書館の開館にあわせて開始され、平成18年合併後志布志市立図書館本館、並びに5分館において事業継続している。											達成度評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間														
実施状況	・市民に常に新しい図書資料の情報を提供するため、本館及び分館並びに移動図書館車「がんがらちゃんしずえ号」それぞれに新刊本の購入を行い、蔵書の整備充実を図った。また、新刊案内については広報誌やホームページで随時紹介を行うとともに、館内では季節ごとにテーマ図書のコーナーの設置やベストセラーや書評などの紹介に努めている。																										
成果	・図書館全体の蔵書の整備充実が図られ、利用者に常に新しい図書資料の情報提供ができたことにより、幅広い図書館の利活用に繋がっている。 ・ホームページへ大活字本の紹介をするなど随時適切な更新を行い周知に努めている。											改革改善案	○ 拡充	現状維持	改善	効率化	廃止終了	・開館以来、28年目を迎える。世代を超えた集客や、コロナ後の新たな図書館ニーズを捉え取組みを行いながら、継続して蔵書の充実にも努めるとともに、今後、手に取って読む本と電子書籍の双方のメリットを生かし、バランスをしっかりとりながら予算を確保していくことが必要である。同時に新刊案内を始め、図書館各種のイベントや事業の取組みについても積極的に各種媒体を活用し情報発信に努める。									
課題	・蔵書は増加状況にある、適切な閉架書庫管理の為、月例ミーティング等を通して読書指導員等と協議しながら除籍基準に基づいた適切な除籍に努める必要がある。除籍後は、ブックリサイクルなど学校や地域公民館、郵便局等への利活用等をお願いしていく。																										

作成日 令和 7 年 7 月 1 日作成

事務事業名		ブックスタート・セカンドブック・サードブック事業 (ブック贈呈事業)		担当課		生涯学習課		(3)指標の推移		4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度					
				担当G	図書館管理係					活動指標（実施状況）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)			
まちづくりプラン (基本目標)		振興計画体系	5	＜教育・文化＞心豊かで志あふれる人づくりと 伝統・文化のまち		予算科目	1	10	4	8	備考	ア	ブックスタート購入セット数		セット	240 182	150 163	150 166	150	150
(個別目標)			2	多様な志を育むまち			主な費目	報償費					イ	セカンドブック事業対象者数		人	270 240	260 235	260 258	260
(施策)		総合戦略	1	生涯学習の推進		対象		・0歳児及びその保護者 ・小学新1年生 ・小学校6年生						成果指標（成果・効果）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)
(基本目標)			4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる			事業期間	平成16年度～ 年度（ 年間）					ア	実配布率		率	100 100	100 100	100 100	100
(施策)		7	安心暮らし推進プロジェクト		イ						小学1～3年生貸出冊数			冊	20,000 22,424	20,000 19,895	20,000 17,016			
(1) 総事業費の推移			単位	4年度 (実績・決算)		5年度 (実績・決算)	6年度 (計画・予算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	9年度 (計画・予算)	(4) 評価		所管課による評価							
年間トータルコスト	事業費 人件費	財源内訳	国県支出金	千円						有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	・市内すべての新生児及び新小学校1年生を対象とし、子どもの発達段階に応じて、興味のある1冊の本との出会いを途切れることなく続けられ、また本を通して親子の絆を深め、本好きな子どもを育むために実施されており、子どもの読書活動の推進につながっている。 ・成長段階に応じた読書のきっかけづくりや習慣化を支援することに期待ができる。								
			その他特定財源	千円	624	1,009	1,183	1,187	1,187											
			一般財源	千円																
			事業費計 (A)	千円	624	1,009	1,183	1,187	1,187											
			所要人員 (年間)	人	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025											
	人件費概算 (B)	千円	140	140	140	140	140													
	(A) + (B)	千円	764	1,149	1,323	1,327	1,327													
(2) 事業概要													効率性 評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	・予算としては、報償費のみの費用である。 ・2つの事業が親子の絆を育むために果たす役割は大きいものであり、本好きな子どもを育てる環境をつくるためにも、大変意義のある事業である。 ・保健課が実施する4ヵ月健診時（ブックスタート）に合わせて行ったり、小学1年生の授業時間（セカンドブック）に代表校に教育長と一緒に outgoing 直接ひとり1人に手渡し後、読み聞かせを実施。子どもたちも大変喜んでいる。 ・サードブックは、卒業記念（図書券）としてこれまで教育総務課が実施していた事業予算・内容を変更して承継する。					
事業目的	・ブックスタート事業は、絵本を介して0歳児を対象に親と子の心のふれあいの時間を持つためのきっかけをつくる事を目的としている。・セカンドブック事業は、県内発の事業であり、子どもたちの発達段階に応じた本に出会うことにより、読書に親しむ機会と生涯にわたる読書習慣を身につける事を目的とする。・サードブック事業は、市内小学校6年生の卒業時に中学生生活にむけた心構えとして「心に響く一冊の本」を贈り将来への豊かな心が育まれることを目的とする。																			
事業内容	・ブックスタート事業は、保健課が実施する4ヵ月健診時に合わせて、絵本と貸出バックのプレゼントや、図書館ボランティアによる絵本の読み聞かせと図書館の利用案内を行う。セカンドブック事業は、小学校新1年生にベスト20冊の中から、それぞれが興味のある1冊を選んでもらい、プレゼントする。また、プレゼントの際に教育長が代表校に出向き、読み聞かせを行うなどしている。更に成長段階に合わせた取組みとして、中学校生活に向けた心の準備としてこの時期に読んでほしい本を学校図書館司書、図書館読書指導員が選書した本の中から1冊を選んでもらい小学校卒業時に贈呈する。																			
必要経費	ブックスタート事業は、読書の必要性和子育て支援を目的に合併前の平成14年度から開始され、セカンドブック事業は、ブックスタートのフォローアップ事業として平成25年度から開始、更に令和5年度から教育総務課が小学卒業記念予算としていたものをサードブック事業へ移行し卒業生に贈呈。											達成度 評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間	・本事業は、親と子の絆を本を介して深めて貰う事や、生涯を通じての読書推進であったりなど、情操教育の一環であるのでその明確な数値目標は困難であるが、小学1～3年生の貸出冊数等で推し量る事としている。 ・ブックスタート事業に参加頂いている読み聞かせボランティアグループからは、大変距離の近い形での密接な読み手と聞き手の関係があり、この事業への参加意義は大変大きいとの意見を頂いている。						
実施状況	・ブックスタート事業は、旧志布志町が実施していた事業であったが、合併して市全体が事業対象となったが、対象の3、4ヵ月児の数は、少子化で少しずつ減少してきている状況にある。 ・セカンドブック事業は、活字離れがさげばれている今、子どもたちの発達段階に応じた本に出会うことにより、読書に親しむ機会を与え、そのきっかけを創生している。 ・サードブック事業は、代表校に出向いて2月実施。																			
成果	・まず、ブックスタート事業により親子の絆を深め、本好きな子どもを育むために実施されており参加率も高く、会場での保護者からの評価は非常に高い。また平成25年度から、小学1年生を対象にセカンドブック事業にも取り組むことにより、さらに子どもの読書活動の推進につながっていくことになる。 ・読書の推進を図る上で大変有効と学校からも喜ばれており、R5からはサードブック事業を展開し不読率低減に取り組んでいる。											拡充	○	現状維持	改善	効率化	廃止終了			
課題	・ブックスタート事業において、事情により4ヵ月健診に参加されない乳児、保護者が見られる事から、手元に確実に届ける必要がある。											・ブックスタート事業は、令和5年度から対面での読み聞かせ活動を再開している。少子化により出生率は減少しているが、市内全ての親子に確実に届けたい事業であり、セカンド、サードと展開することで読書活動の推進を推し量る手段として期待されるものである。								

令和 7 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 7 年 7 月 1 日作成

事務事業名			図書館管理運営事業				担当課	生涯学習課				(3)指標の推移		4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度							
							担当G	図書館管理係				活動指標（実施状況）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)						
							予算科目	会計	款	項	目	備考			(実績)	(実績)	(実績)									
								1	10	4	8															
まちづくりプラン（基本目標）			振興計画体系	5	<教育・文化>心豊かで志あふれる人づくりと伝統・文化のまち				予算科目				需用費、委託料、工事請負費使用料及び賃借料外	ア	貸出冊数	円	160,000 155,844	170,000 152,670	170,000 150,604	170,000	170,000					
(個別目標)			2	多様な志を育むまち				主な費目					イ	新規利用カード登録者	円	530 423	550 449	500 383	500	500						
(施策)			1	生涯学習の推進				対象				図書館本館及び分館				成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)		
(基本目標)			総合戦略	4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる											成果指標（成果・効果）		単位	(実績)	(実績)	(実績)					
(施策)			7	安心暮らし推進プロジェクト				事業期間				平成9 年度～ 年度（ 年間）				イ	一人あたり貸出冊数	冊	5 5	5 5	5 5	5	5			
(1) 総事業費の推移			単位	4年度 (実績・決算)	5年度 (実績・決算)	6年度 (計画・予算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	9年度 (計画・予算)	(4)評価		所管課による評価														
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国県支出金	千円						有効性 評価	・ 市民のニーズ ・ 事業の効果 ・ 政策との整合性 ・ 事業を廃止の影響 ・ 類似事業との連携 ・ 公平性	・ 地域でも随一の規模を持つ本館施設のほか、分館施設があり市民はもとより、市内に就学・勤務される方など広く多数の方に利用頂いている。 ・ 他事業に類似性等は無く、また図書館法に基づき原則利用は無料であることから、利用者に公平性を保っている。 ・ 適切な読書環境を提供するため施設の維持管理は重要である。														
		財源内訳	その他特定財源	千円	35,993	56,500	0	0																		
		財源内訳	一般財源	千円	12,243	10,752	13,296	14,921	14,921																	
	事業費計 (A)	千円	48,236	67,252	13,296	14,921	14,921																			
	所要人員 (年間)	人	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300																			
	人件費概算 (B)	千円	1,680	1,680	1,680	1,680	1,680																			
			(A) + (B)	千円	49,916	68,932	14,976	16,601	16,601																	
(2)事業概要																										
事業目的	・ 図書館の円滑な運営と利用者のサービス向上を図り、快適な読書環境を提供するために、施設の維持管理に努める。												効率性 評価	・ 事業効果向上 ・ 事業費削減 ・ 事務の効率化 ・ 費用対効果 ・ 財政負担の必要性 ・ 関係者との連携		・ 図書館運営の持つ特殊性として、レファレンスや書籍案内、読み聞かせなどの業務において、司書資格などの専門性が求められる。 ・ 利用者の利便性に配慮し、土日祝日にも開館し、おはなし会や隣接する志ふれあい交流館を活用しアニメ上映会など交流の場を提供している。										
事業内容	・ 維持管理に伴う各種委託契約等に関する全ての業務を行うとともに、所蔵図書及び相互貸借本の貸出しや返却業務、お話し会等各種イベントを行う。																									
開始経緯	・ 平成9年開館とともに事業開始。 ・ 施設が存する限り、利用者の利便性は確保した上で、安心、安全を念頭に置いた維持、管理等が必要となる。												達成度 評価	・ 数値目標 ・ 目指す状況 ・ 実現性 ・ 情勢、環境の変化 ・ 事業期間		・ 敷地内の樹木の剪定・伐採を実施。 ・ 随時施設の補修等に対応しながら、維持管理に努めた。 ・ 施設修繕は、空調機・照明（LED）の更新工事を実施。										
実施状況	・ 施設の運営、文書管理、勤務調整、会計年度任用職員の雇用、施設の維持管理に関する委託及び賃貸借契約等事務など。																									
成果	・ 最適な施設の維持管理と環境づくりが図られた。また、新型コロナウイルス感染症対策として、書籍消毒機や空気清浄機等を活用し、利用者に安全安心で快適な読書環境を提供することができた。												改革 改善 案	拡充		現状維持		○ 改善		効率化		廃止終了				
課題	・ 平成9年の開館から28年を迎え、館内各所に老朽化による不具合等が生じてきているので、年次的に整備していく必要がある。													・ 施設の適切な維持管理に努める。												

作成日 令和 7 年 7 月 1 日作成

事務事業名		電子図書館運営事業		担当課	生涯学習課					(3)指標の推移		4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度							
				担当G	図書館管理係					活動指標（実施状況）	単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)								
まちづくりプラン （基本目標）		振興計画 体系	5	＜教育・文化＞心豊かで志あふれる人づくりと 伝統・文化のまち		予算科目	会計	款	項	目	備考	ア	購入冊数 （タイトル）	冊		500	500	500	500	500				
（個別目標）			2	多様な志を育むまち			主な費目	役務費・使用量及び賃借料・備品購入費								500	600	700	800	900				
（施策）			1	生涯学習の推進		対象		志布志市民及び市内に就学・ 就職					イ	新規登録者（利用者数）	人		500	600	700	800	900			
（基本目標）			4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる			事業期間	令和5 年度～ 年度（ 年間）								ア	アクセス数（ログイン）	件		500	600	700	800	900
（施策）		7	安心暮らし推進プロジェクト		イ	貸出冊数（タイトル）		冊		500	1,200	1,500	2,000	2,500										
												1,000	6,294											
(1) 総事業費の推移		単位	4年度		5年度		6年度		7年度		8年度		9年度		(4)評価		所管課による評価							
			(実績・決算)		(実績・決算)		(計画・予算)		(計画・予算)		(計画・予算)		(計画・予算)											
年間 トータル コスト	事業費 内訳 人件費	財源内訳	国県支出金	千円		2,042		3,976		3,978		3,978		有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	・図書館情報を随時発信しニーズに対応した情報提供により市民満足度の向上といつてもどこでも閲覧できる市民の利便性向上に繋がる。 ・文科省のGIGAスクール構想による1人一台のタブレット端末を持つ児童生徒の利用に際し学校との連携を図ることで、市内の子どもの読書環境の選択肢と不読世代の利用率向上が図られると思われることから、読書格差の是正にもつながる。								
		財源内訳	その他特定財源	千円		2,042		3,976		3,978		3,978												
		財源内訳	一般財源	千円		2,199		0		0		0												
		事業費計 (A)	千円	0	6,283		3,976		4,207		3,978													
		所要人員 (年間)	人		0.100		0.100		0.100		0.100													
人件費概算 (B)	千円	0	560		560		560		560															
	(A) + (B)	千円	0	6,843		4,536		4,767		4,538														
(2)事業概要																								
事業目的	・非来館型サービスとして電子書籍を導入し、いつでも・どこでも・誰でも利用できる電子図書館の運営に取り組む。																効率性 評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	・近年のコロナ禍における来館者の減少を踏まえ読書的手段として電子書籍の活用は非常に有効な手段であり、デジタル化時代に対応した取り組みを推進する必要性がある。しかし、提供されるコンテンツ数が少なくコストもかかるため予算の確保が課題である。					
事業内容	・コンピューターのデータベースを利用したウェブサイト上の図書館で、開館日や閉館日を気にせず、いつでもインターネットを通じて閲覧・貸出・返却が可能になる。また、市内学校と連携したタブレットを活用した児童生徒の読書環境の選択肢の拡大や文字を読むことが困難な方々に対しても電子書籍の機能を活用した読書機会を提供できる環境とする。																							
必要性	開始経緯	・電子図書館（電子書籍）サービスの導入については、国の推進するDX（デジタルトランスフォーメーション）、文科省の「GIGAスクール構想」の進展等、デジタル社会に対応した読書環境の整備が求められており、国の子どもの読書活動の推進に関する法律に基づき策定される第五次の計画において「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」いわゆる読書バリアフリー法を踏まえた多様な子供たちの読書機会の確保と読書環境の充実といった取り組みが求められている。コロナ感染症等の緊急時、災害等においても、非来館型のサービスとして、いつでも・どこでも・だれでも利用できる運用と利用者の利便性の向上と選択肢の拡充に努める。																達成度 評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間	・アンケート回答では6割以上が好評である。特定図書や蔵書数増加といった要望がある。 ・推進するに当たってはその意義を共有しながら進めていく必要がある。 電子書籍は、紙の本を完全に置き換えるのではなく、紙書籍のよさとデジタル化の機能やコンテンツの役割などそれぞれの持つ特徴のいい部分を生かして、利便性の向上や選択肢の拡充等、利用者のニーズに合わせて相互補完し検証を行いながら図書館としての使命を果たすことが必要である。				
実施状況	令和5年10月運用開始、開始に向けては各種様々な媒体を使って開始予告を行った。広報担当課や観光特産品協会へご当地キャラクターを要請する等市民への告知活動に繋げることができた。																							
成果	電子図書館トップページ画面からアンケート回答を実施。90件を超える回答のうち、約7割の回答者が利用を喜んでいる。																改革改善案	○ 拡充 現状維持 改善 効率化 廃止終了 積極的な利用促進の呼びかけ情報発信に努める。 紙の本と電子書籍の双方のメリットを生かして、読書に親しむ多様な読書機会の提供と支援に努める。また、第4次志布志市子ども読書活動の推進計画においても個別多様化する学びのニーズにつなげる読書環境の整備が必要なことから、その必要性を予算に反映していく。						
課題	学校との連携を図りながら朝読などの一斉利用や授業での活用など推進を図る。																							